

第46回 ポラ

カコちゃん ショウくん かほくがたマルドレイン

ヒロ



ポラは、現在の河北潟にもよく見られる魚ですが、かつて河北潟に海水が入っていた頃には、スズキやウナギなどととも漁も行われるくらいたくさんいた魚です。海の魚のイメージがありますが、海水と淡水が混ざる汽水域を主な生息場所としていて、完全な淡水の川にも遡ります。特に幼魚のうちは、群れを作って川に生息しています。

汚濁に強いことから近年では汚い川にいるイメージが強くなり、食べられない魚、まずい魚の印象がありますが、以前は重要な水産資源でした。河北潟でも漁が行われ、よく食べられていたようです。昭和24年の「河北潟漁業調整規程」には、ポラ刺網の漁業権が64隻に割り当てられていました。その他、素朴な漁として潟縁の住民の間で行われていた竹かごをかぶせて捕る「うがい漁」でも、40～50cmサイズのポラが捕れたようです(かほくがた14-2)。金沢では色づけと言ひ、照り焼きにして食べていたようです(聞き書き石川の食事)。

このように、河北潟でもポラの漁は行われていましたが、石川県では、七尾湾のポラ漁が特に有名です。浅い海の上に建てられたポラ待ち檣の上で、回遊してくるポラの群れを日がな一日待つのだかな漁ですが、昔は一網で何百匹も捕れたということです。能登では、ポラは格別に美味しい魚として、照り焼きのほか、刺身にしたりお茶漬けにしたりして食べられていたようです。

身近な魚でもあり、おいしい魚でもあったポラですが、河北潟の潟縁の集落では、昭和30年代に入ってポラを食べなくなったそうです(かほくがた15-1)。それは、田んぼで農薬が使われるようになり、メダカが大量に死んだり、河北潟の魚に奇形が目立つようになってきたからとされています。

現在では、農薬が改良され急性毒性が低下して、かつてのような魚が死んだり奇形を生じるような状況はなくなりましたが、河北潟の周辺での淡水魚全体を食べない風潮は、現在まで続いています。加えて、河北潟の富栄養化が現在まで続いていることから、そこに住むポラをはじめとする魚介類のイメージが悪いまです。しかし、河北潟には重要な水産資源となる魚がたくさんいますので、本来の環境が取り戻され、河北潟の魚を安心して食べられるようになれば素晴らしいことです。

ボートで河北潟に出ると、驚いたポラが良く跳ねて、時には舟の中に飛び込んできます。そうしたときに、「今日の食糧がゲットできてラッキー」といえるような、河北潟を早く取り戻したいですね。

(文：高橋 久)